



自衛隊などが有事を視野に民間港を軍港のように整備・活用する特定利用港湾の問題で、高松市の高松港が指定されたこ

とに反対する「郷土かがわを戦場にするな！」県民連絡会が15日に結成されました。

高松市で開かれた結成

総会には約100人が参加し、県に対し撤回を求める署名に8月末をめどに取り組みを確認しました。日本共産党の櫻昭二県議が港湾指定の経過などを報告し、県民の意見を十分に聞かず、議会に相談もせず、国言いなりに受け入れた県の姿勢を批判。「平和の

## 高松港の特定指定撤回を郷土香川を戦場にするな！

### 県民連絡会を結成



定価 月 100円  
発行所  
民主香川社  
高松市藤塚町  
3丁目13-14  
☎(087)834-7311

## 原水爆禁止！四国大会を開催

7月6～7日に第70回原水爆禁止四国大会in徳島が開催されました。参加人数は173人で、香川からは11人が2日間参加しました。四国各県の活動交流があり、香川県は、通し行進者を歌い、行進後には地域での署名行動をしたことや、非核キャンペーンと民医連の九条の碑の取り組みなどを報告しました。

徳島県は「日本政府は核兵器禁止条約の署名・批准せよ」との意見書採択が残りの2市になったことを報告。

原発問題では、能登半島地震と志賀原発から議論となり、愛媛県は2月に肱川地震と愛南町で地震が発生し「伊方原発でも被害があり、四国電力は当初何も起こらなかったと言いつつ被害を小出しにするという態度をとった」と告発。

### 原爆パネル展のご案内

日時：8月4日(日)～10日(土)  
10時～17時

会場：市民交流プラザ  
(瓦町FLAG8階)

主催：高松市平和を願う市民団体協議会



高知県は、ビギニ問題では水爆実験が1946～58年まで続いたが、被災者は残留放射能の被害があり、当時のマグロ漁船累計1000隻もの被害だ」とのべ

## 郷土史辞典「笠居郷探訪」(一部抜粋) ⑮ 南海道 著者 立山信浩

(1)古代日本の地域名：古代日本は五畿七道に地域区分されたが、その七道の1つ。紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊予、土佐の6カ国からなる地域。現在の四国全域と和歌山県、淡路島にほぼ相当する。

※ 南海道は、畿内および山陽道の南にあることから名称。

(2)古代日本の官道名：7つの古代官道(勅使道km)のうちの1つで、南海道6カ国の国府を通じて都に通じる官道。官道上の30里(現在の5里、約16km)ごとに駅が置かれたが、南海道全体には21の駅が置かれていた。

※ 讃岐国には刈田、松本、三谿、河内(甲知)、斐井(みかい)、柞田(くにした)の6駅があり、讃岐六宿と通称された。

※ 讃岐六宿のうち通称地がほぼ確認されているのは刈田

田駅、引田町馬宿、三谿駅、高松市三谷、柞田駅、観音寺市柞田の3駅である。他の3駅は正確な場所の確定ができておらず、松本、大川町田面、河内駅、坂出市府中、斐井駅、仲多度郡三井(筆岡)であろうとされているが異説もある。刈田は引田の誤記であろうとされる。

※ これらの駅に泊まれるのは役人のみであり、庶民は野宿であった。

※ 駅には駅馬が配置されていた。駅馬の数は官道の規模によって違っていたが、南海道の場合は各駅に5頭であった。駅馬は駅鈴(えきれい)を持つ官人だけが緊急の公用に用いた。馬はそれぞれの国内で調達した。讃岐国では詮間に官牧があり、馬を育てていたという。



駅鈴(えきれい)



「京までは七日かかった南海道」(歴史かるた)

延喜式(927年施行)には、各国から都への運上の方や日程を定めており、それによれば讃岐国から都への貢納は1日の行程が馬38km、徒歩27km、車を引けば16km。讃岐から京までは、荷物がある上りは12日間、下りは6日間、海路は12日間かけてよいとされていた。

讃岐国内の南海道は山間部を除けばほぼ直線状の道で、工事に当たって白山、六目山、飯野山、香色山などのビュート(孤立丘)型の目立った山や、唐渡峠、綾坂、額坂などの峠をランドマーク(目印)として用い、それらを結ぶ直線道路を造った。

※ 現在の県道三木国分寺線は、ほぼ南海道に合致もしくは平行している。

### 高松市内2カ所で懇談会 宮本 徹 衆院議員ら

日本共産党の宮本徹衆院議員は14日高松市内の2カ所で開かれた「希望を語るわくわく懇談会」で講演し、「共産党はおかしなこと、不条理なことに黙っていない。そうした声を一緒に上げる仲間



になってほしい」と入党を呼びかけました。両会場とも満席の参加者。【2面につづく】

## 異台教太

先日、雨が降りしきる中「希望がワクワク懇談会」(日本共産党)に参加しました。高松2会場とも満員の参加で、宮本衆議院議員や白川よう子四国ブロック

国政対策委員長の訴えに聞き入りました。アベノミクス以来自民党が続けてきた「大企業には減税」「防衛費は膨大に」「日本を対中国戦争の拠点に」「政治とカネへの無反省」に対して庶民には物価高と所得の伸び悩みをもたらした、「自民政権ではダメ」という流れが国民に生まれている。「政策も未来社会の展望も知らなければ知らせるほど共感や支持を揺るがす」「歴史的チャンス」という話に「ああそうなのか」と相槌を打ちました。会場では政治革新の戦列に加わる決意をされた方が何人も現れ、私も頑張らねばと決意しました。